

世界はともだち



2022.04～2023.03

1年の振り返り

令和4年度に実施した主な事業を紹介します。 [P2]>>>

令和4年度

岩手県国際交流協会 主要事業の実施状況

協会では2019年度から、10年間を見据えた取組みということで、岩手県国際交流協会事業推進計画である「いわてビジョン2019」を作成し、3本の柱に沿って事業を進めています。
令和4年度の実施状況の一部をご紹介します。

多文化共生の地域づくり

地域日本語教育推進事業 県委託事業

令和4年度、特に力を入れた事業のひとつです。地域の実情や外国人県民のニーズに合った日本語教育を、県内の幅広い地域で提供する体制をつくることを目的とし、環境整備等を行っています。

オンライン日本語学習講座 NEW!

このオンライン日本語教室は、地域で暮らしていくために必要な基礎的な日本語を学ぶ講座です。令和4年度は、10名の在住外国人の方が修了しました。

日本語教室開設サポート NEW!

日本語教室がない地域への教室開設サポートを実施しました。令和4年度は大船渡市国際交流協会、NPO法人おはなしころりんとので、大船渡市に日本語教室(名称:にほんご交流カフェ)を立ち上げるため、交流カフェで活動して下さるサポーターを対象とした研修を行いました。3月末にはプレオープン、4月から本格的に開設されます。

日本語教育人材の養成

地域の日本語教室で活動する方等を対象とした研修を行いました。



釜石市、二戸市、盛岡市、宮古市、オンライン

開催地

NEW!

なか東北連携地域日本語教育人材育成事業への協力

生活者としての外国人を対象とする地域日本語教育人材が不足している背景から、岩手、山形、秋田の3県の大学と国際交流協会等が連携し、地域で日本語を教える人材の育成を目的とした事業を実施しました。今年度は、当県から10名の方が修了され、今後、県内で専門人材として活躍されることが期待されています。

外国人との交流会の実施

気軽に英会話を楽しめるイベント「英語タイム」を、オンラインと対面で毎月第1土曜日に開催しました。また、隔月で、各国の文化等を在住外国人の方に紹介してもらうイベントを開催しました。

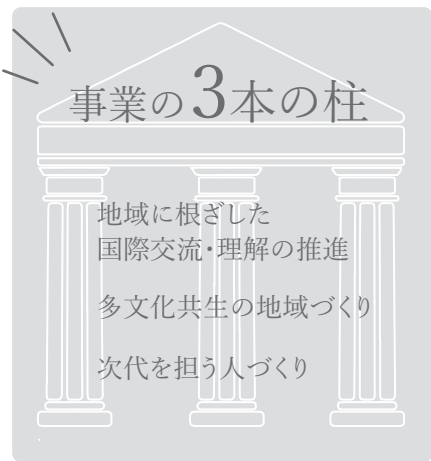
2022 **11.20** (Sun.)

2022ワン・ワールド・フェスタinいわての実施

「世界の魅力発見ツアーによるこそ」をテーマに交流ブース、世界の飲み物・お菓子を提供するカフェ等のプログラムを行い、延べ3,905人が来場しました。

身近な国際協力～世界フェアトレードデー～の実施

JICA東北との共催で、フェアトレードを通じて国際協力の意識啓発を図るイベントを、2回開催しました。



地域に根ざした 国際交流・理解の推進

地域国際化人材育成研修

県委託事業

市町村・協会担当者等を対象にした研修を5月～7月に3回実施しました。

地域国際化推進会議の開催

市町村・協会担当者を対象にし、県内4か所において、5月に実施。令和4年度の県の国際交流施策、県国際交流協会事業についての説明や、各地域における国際交流・多文化共生推進の取組状況について情報交換しました。

国際交流関係団体等の活動支援助成

14件の助成を実施しました。

国際交流センターの運営

県委託事業

岩手県における国際交流・協力、多文化共生に関わる活動の拠点となる施設です。

災害時の外国人支援

県委託事業

災害時多言語支援窓口運営の体制整備や、災害時多言語サポーター育成のための研修等を行いました。

＼実施内容／

- ・災害時多言語サポート研修会(基礎・応用)、実践訓練
- ・災害時に使用する英語講座、中国語講座
- ・やさしい日本語研修会など

外国人労働者受入体制整備

県補助事業

県内の外国人労働者と地域住民との交流の機会を設けました。令和4年度は、釜石市、大船渡市、紫波町、二戸市、矢巾町、西和賀町において開催しました。

県委託事業

いわて外国人県民相談・支援センターの運営

国際交流センター内に設置しています。英語、中国語、ベトナム語、韓国語の相談専門員による相談対応の他、岩手県行政書士会、岩手弁護士会とも連携し、体制を整えています。

困ったことがありましたら、ご連絡ください。

TEL 019-654-8900



次代を担う人づくり

県委託事業

いわてグローバル人材育成推進協議会の運営

日本人学生等の海外留学支援と、外国人等のグローバル人材の地元への就職・定着支援を行っています。

＼実施内容／

- ・2022グローバルキャリアフェアinいわて **2022.11.19** (Sat.)

令和4年度多文化共生地域づくりセミナー

「日本語上手ですね」の真意

日常会話において、日本語で十分な会話ができる外国人は「日本語上手!」と褒められますが、仕事において日本人側が思っているようなレベルでないと「期待どおりでない」と評価されることがあると様々な調査で述べられています。そのようなギャップについて考え、日本語話者の目線で解きほぐしていくためのセミナーを2023年2月17日(金)アイーナにて開催しました。

パネリスト

兒玉 明氏
(株)アーケネット
代表取締役社長

チェンジャー ハウル 氏
(株)アーケネットSE
マレーシア出身

コーディネーター

松岡 洋子 氏
岩手大学国際教育センター 教授

パネリストとしてご登壇いただいた兒玉社長は、今まで外国人を積極的にインターシップで受け入れてきました。人材確保が難しくなる昨今では、外国人採用も積極的に考えているようですが、「自分の言っていることを本当に理解しているのかどうか、不安がある」と言います。日本語のレベルが高くても、職場でのコミュニケーションがうまくいかないことがあるようです。マレーシア出身のハウルさんは、その原因のひとつに外国人が教科書などで学んできた日本語と職場で使われている日本語は違うことを挙げましたが、「外国人がわかるようなやさしい日本語」に言い換えて説明するのも難しいと感じているようです。

コミュニケーションが取れない原因は、必ずしも言語の問題だけではないことが松岡教授から指摘されました。そこには、言語の他に「習慣、経験、世代のずれ」による壁があります。そこに、「主語がない文章」だったり「結論を先に言わない」といった日本語に見られる特徴が加わると、さらにコミュニケーショ

ンが難しくなってしまいます。

だからこそ、ハウルさんにとっては「伝えることをあきらめず、あらゆる手段をつかって伝えることが大事」なのだそうです。また、兒玉社長も「日本人側も話し方や話す順序を変えたり、身振り手振り、絵、図のような非言語手段も用いたりして、伝わりやすくする努力をしなくてはいけない」ということを心がけているようでした。講演では、ハウルさんが兒玉社長に説明するために書いた図やメモの写真が投影され、伝えるための努力と熱意が感じられました。

外国人が日本語を勉強して、日常会話やあいさつで使うような定型文を上手に話せるようになると、日本人に「なんでも理解してもらえる」と思われてしまうことがあると言います。「これくらい確認しなくてもわかるだろう」といった思い込みをせず、何がどこまで伝わっているか確認する作業を怠らない、伝える努力を怠らないということが、日本人と外国人のコミュニケーションをより良いものにしていくために重要なことのひとつだと、改めて考えさせられたセミナーとなりました。



アーケネットの兒玉社長(左)と、自己紹介をするハウルさん(右)

The Truth Behind “Your Japanese is Good!”

Various studies have shown that although foreigners who are able to speak conversational Japanese are often complimented with “Your Japanese is good!”, if their level of Japanese ability does not meet expectations in the workplace, foreigners are often met with disappointment. We held a seminar on Friday February 17 2023 to unravel and pinpoint the reason behind this difference in attitude from a Japanese speaker perspective.

Panelists

Kodama Akira *President, Arkneta* / **Chen Jia Haur** *System Engineer, Arkneta (From Malaysia)*

Coordinator: *Matsuoka Youko* *Professor, International Education Center, Inate University*

Panelist and President of Arkneta, Kodama Akira has been actively taking up foreign workers on internship programs. Despite being in a day and age where finding workers is becoming increasingly difficult, when it comes to actively hiring foreign workers, Mr. Kodama is still hesitant, having concerns about whether or not foreign workers truly understand what he is saying or not. Even if their Japanese ability is high, there are still instances of miscommunication in the workplace. Chen Jia Haur, from Malaysia, suggests that one of the reasons for this is because of the difference between textbook Japanese and the Japanese used in the workplace. At the same time, he also acknowledges that it is difficult for Japanese people to adjust their level of Japanese to plain Japanese that foreigners would be able

to understand.

Professor Matsuoka Youko pointed out that the cause of miscommunication isn't always because of language ability. In addition to language ability, barriers are created by customs, experience and generational differences. Characteristics of the Japanese language such as missing subject matters and not being direct with conclusions creates further barriers in communication in Japan.

Because of this, Haur believes it is important to never give up trying and to convey by any and all means possible. Kodama believes that the Japanese side should also work to make communication smoother by changing the way they speak and the order of words, as well as using non-verbal communication such as gestures,

pictures and diagrams. During the seminar, the notes and diagrams Haur drew to explain things to Kodama were shown to the participants, demonstrating the passion and effort Haur puts in to communicate with Kodama.

When foreigners learn Japanese and reach the level of Japanese where they are able to use set phrases well in greetings and everyday conversation, Japanese people end up thinking that they are able to understand anything. This seminar served as a reminder that one of the most important things for better communication between Japanese and foreigners is not to make assumptions about level of understanding and neglect the process of checking what has been conveyed, how much has been conveyed and communicating effectively.

活动报告

“日语说的真好呀”的真意

在日常会话中,能用日语充分会话的外国人会被夸赞为“日语真好!”。但是在各种调查中发现,如果工作中没有到达日本人认为的水准,就会被评价为“不符合预期”。考虑到这样的差距,2023年2月17日(星期五)在Aaina举办了以日语使用者的视角开解的研讨会。

出席者

儿玉明氏 ARKNET 代表董事长 / **CHEN JIA HAUR 氏** ARKNET SE 马来西亚出身

协调员 **松冈洋子氏** 岩手大学国际教育中心 教授

作为出席者登台的儿玉社长,迄今为止积极地接受外国人进公司实习。在人才确实变得困难的现在,也在积极考虑招聘外国人,但“对能否真正的理解自己所说的话,感到不安”。因为即使日语水平很高,职场沟通中也会出现不顺利的时候。马来西亚出身的HAUR先生提出,其中一个原因时外国人在教科书等中学到的日语和职场使用的日语不同,可以感觉到很难用“外国人能理解的简单日语”来解释。

松冈教授指出,无法沟通的原因不一

定是语言问题,除此之外,还有“习惯、经验、世代间的偏差”等障碍。再加上“没有主语的文章”、“先不下结论”等日语中的特征,使得沟通更加困难。

正因为如此,HAUR先生提出“不放弃沟通,使用各种手段传达是很重要的”。另外,儿玉社长也注意到“日本人也要改变说话方式或说话顺序,使用手势、绘画、图等非语言的手段,努力使其更容易交流”的行动是很重要的。在演讲中,投影了HAUR先生为了向儿玉社长说明而写的图和笔

记,感受到了HAUR先生努力交流的心意和热情。

一般外国人学习日语,如果能很好地日常会话和寒暄中使用的定型文的话,日本人就会认为“什么都能理解”。但是,不要抱有“不确认这么多也能理解吧”的想法,不要懈怠确认所说内容传达到什么程度的工作,并且不要懈怠努力地传达。这是使日本人与外国人能更好交流的至关重要的,在这次研讨会中重新认识到了这一点。

今回のテーマ

民間療法

Topic: Folk Remedies / 民间药方

ひとつのテーマについて国ごとに比べ、それぞれの文化の違いや共通点を見つけてみましょう!

Let's find out the differences and similarities of each culture by comparing each country with one topic!

以同一个话题比较不同的国家，试着找出各文化差异和共同点吧

マーク

Mark さん | カナダ Canada 加拿大

カナダは移民の国なので、多くの人が自身の出身国の民間療法を持ち込みました。しかし、カナダの先住民は、はるか昔、トウヒ〔マツ科の針葉樹〕の樹液や樹皮、針葉を使って、さまざまな病気に効く薬を作ることを学びました。樹液は傷や感染症の湿布薬として、煮だしてお茶にした針葉は風邪や咳の治療に使われ、さらには、北米に到着して間もないころのヨーロッパ人船員を苦しめた壊血病の治療にすら利用されたのです。

Canada is a country of immigrants, so many have brought their home remedies from their original countries. However, the original indigenous people of Canada long ago learned to use the sap, bark, and

needles of the spruce tree to make medicines for a host of ailments. The sap was used as a poultice for wounds and infections, and the needles were boiled into a tea to treat colds and coughs, and even to cure scurvy afflicting the early European sailors arriving in North America.

因为加拿大是移民国家，所以很多人都带来了自己出身的民间疗法。但是，加拿大的原住民从很久以前就学会了用云杉（松科的针叶树）的树汁液、树皮、针叶来制作对各种疾病有效的药。树汁液可作为治疗伤口和传染病的膏药的原材料，煮成茶的针叶对感冒和咳嗽有奇效，甚至用于治疗到达北美不久就让欧洲水手受苦的坏血病。

Wu

伍 さん | 中国 China

塩きんかん

塩きんかんは、きんかんを塩漬けにしたもので、民間療法では、のどの痛み、咳、かぜによるかすれ声の治療のため食べられます。多くの広東の家族が毎年作っており、漬け込む時間が長ければ長いほど効果があります。風邪、咳、喉の不快感があるときはいつでも、塩漬けのキンカンを取り出して水で飲むと、咳を和らげ、痰を減らすのに非常に良い効果があります。

Salted Preserved Kumquats

Salted preserved kumquats are, as the name suggests, kumquats preserved in salt and are commonly known to be a home remedy for sore throats, coughing and hoarse voices that stem from cold symptoms. Every

year, many Cantonese families make these and it is said that the longer you let them preserve, the more potent the medicinal qualities become. Any time we show signs of illness such as cold, coughing or even a tickle in the throat, we take out a few kumquats and mix it with water. Drinking the resulting tea is effective in soothing coughing and reducing phlegm buildup.

咸金桔

咸金桔是用盐腌制后的金桔，称为咸金桔，它对于感冒所引起的喉咙疼痛、咳嗽、声音沙哑有一定的医疗作用，是一种民间偏方。很多广东人家年年都做，腌制的年头越长越好。每当感冒咳嗽，咽喉不适的时候，就捞出一颗咸金桔冲水喝，有非常好的止咳化痰的功效。

ウック
UOC さん | ベトナム Vietnam 越南

ベトナムでは車酔いをしないように、バスや車に乗る前にみかんの皮を取って、鼻の前にくっつけます。みかんの優しい香りで、バス、車の独特な匂いが中和できるので、車酔いの大きな原因である匂いの問題が解決できます。このことはベトナム人にとっては普通のことですが、外国人が初めてこの光景をみると、すごくびっくりして笑ってしまうのです。

In Vietnam, we often stick pieces of orange peel underneath our nostrils before riding buses or cars to prevent motion sickness. One of the biggest causes of motion sickness is smell. The gentle aroma of the orange peel

overrides the distinctive odor of buses and cars, and therefore prevents motion sickness. While this is normal in Vietnam, visitors to the country often are surprised and laugh at this sight.

在越南，为了不晕车，在乘坐巴士或汽车之前会取橘子皮贴在鼻子前面。橘子的柔和香味可以中和巴士或汽车的独特气味，可以解决晕车的主要愿意——气味问题。这对越南人来说是很普通的事情，但是外国人第一次看到这个情景时会被吓了一跳，并笑起来。

キム
Kim さん | 韓国 South Korea

韓国では「消化不良や胃もたれには指を針で刺すのが一番」と言われます。というのは、韓国には、消化不良時に、背中を数回叩き、腕を揉み、掌を撫で、指を針で刺して放血するという一連の治療法があるからです。「子供の頃に消化不良になると、おばあちゃんが針をもって来るので怖かったが、最後に指先から黒っぽい血が出てくると不思議なことに一瞬で楽になった」との話をよく耳にします。黒い血は、漢方という瘀血（おけつ）であり、様々な病気の原因と考えられています。科学的な根拠はありませんが、今もまだこの方法を実践している人も多いことから、効果は抜群だと考えられます

In South Korea, it is said that the best remedy for indigestion or an upset stomach is to prick your thumb with a needle. This is because in South Korea, if you have indigestion or an upset stomach, there are a series of home remedies which involve slapping your back a few times, massaging your arms, and kneading the palms of your hands before pricking your finger with a needle to release blood. We often hear stories of South Koreans

who, when they had indigestion as children, were scared when they saw their grandmothers heading towards them with a needle, but after seeing the blackish blood come out of their fingertip, strangely enough felt instantly better. In traditional Chinese medicine, black blood is known as blood stasis and is often the cause of many different illnesses. While there is no scientific evidence behind this remedy, the fact that many people still practice this method to this day suggests that it is very effective.

在韩国有“消化不良和胃胀时用针扎手指最见效”的说法。这是因为在韩国消化不良的时，可以拍打背部几次、揉搓胳膊、抚摩手掌、用针扎手指，这样一系列的治疗方法。经常听到这样的故事：“小时候消化不良的话，奶奶就会拿着针过来非常可怕，可是最后指尖冒出黑色的血的时候，很不可思议的身体一瞬间就变轻松了” 黑色的血在中医里叫做瘀血，被认为时各种各样病症的原因。虽然没有科学依据，但现在仍有很多人实施这种方法，可以说是效果超群。

平泉国際交流協会

Hiraizumi International Exchange Association



岩手県内の国際交流協会で行われている活動・取組を紹介します。今回は、平泉国際交流協会です。

We are introducing the activities and efforts being carried out by the International Associations in Iwate Prefecture. This time, we will be introducing Hiraizumi International Exchange Association.

紹介在岩手県内の国際交流協会举行的活动和措施。本次介绍平泉国際交流協会。

当

協会は毎年一つの国を取り上げ、民族音楽、舞踊、講演、スポーツや料理などを紹介し国際理解を進めるというコンセプトで「もっと知りたいあの国」シリーズを毎年主な事業として行っています。

令和4年度はロシアの軍事侵攻により子どもを含む多くの一般市民が大きな被害を受けているウクライナを取り上げました。平泉国際交流協会として微力でも援助できればということで、昨年7月の平泉水掛け神輿の際の募金活動とともに2月12日(日)にウクライナ支援チャリティコンサートを行いました。コンサートでは7年前の「もっと知りたいあの国 第13章 ウクライナ」で一度平泉で演奏し、パワーポイントで国を紹介していただいたカテリーナさんに再度お越しいただき開催しました。

このコンサートの入場券2,000円/人は全額ウクライナ大使館に寄付をし、コンサートの費用は当協会の予算と岩手県国際交流協会様からの助成で賄いました。約170名の入場がある程度まとまった金額をウクライナ大使館に寄付できることは会としてこの上ない喜びでした。

Every year, our association picks a country to introduce its culture, traditional performing arts, sports and cuisine in our “Let’s Learn about That Country” series, in order to promote international understanding.

In 2022, we picked Ukraine, where many civilians, including children, have suffered greatly as a result of Russia's military invasion. Wanting to help in any way possible, our association set up a donation box at the Hiraizumi Mizukake Festival (Water Spraying Festival) last July and held a charity concert on

Sunday, February 12th 2023. We invited Kateryna, a Ukrainian who performed and introduced Ukraine at the 13th edition of the “Let’s Learn about That Country” series. She performed the same song she performed 7 years ago at the charity concert.

Tickets were 2,000 yen per person and all proceeds have been donated to the Ukrainian embassy. Our association, in conjunction with the Iwate International Association, covered the costs of the concert. As the Hiraizumi International Association, it was a great pleasure to be able to donate the funds raised at the concert that was attended by 170 people.

本

協会每年都会报道一个国家，介绍其民族音乐、舞蹈、演讲、体育和料理等。以推进国际交流为理念，每年开展的“想了解更多的那个国家”系列是本协会的主要事业。

令和4年度报道了因俄罗斯的军事入侵，包括儿童在内的许多普通市民遭受巨大损失的乌克兰。作为平泉国際交流協会，为了能够提供微薄之力，去年7月平泉泼水神轿的庆典中举行了募捐活动以及2月12日*（星期日）举办了乌克兰支援慈善音乐会。在演唱会上，我们迎来了在7年前的“想了解更多的那个国家 第13章 乌克兰”中，在平泉演奏过一次、并以PPT介绍了自己国家的卡特琳娜的再次光临。

这场演唱会的入场券为2,000日元/人，全额捐赠给乌克兰大使馆，演唱会的费用由本协会的预算和岩手県国際交流協会の补贴支付。大约由170人入场，能够向乌克兰大使馆捐赠一定的金额，对本协会来说感到无与伦比的喜悦。